



通信

電話048-480-4150

2021年1月31日発行



～2021年の抱負～

み
みんなコロナにかからず
一年間元気で
いられますように
スタッフ一同



あ
あるわけないじゃない
M・K

お
お父さん
仕事がんばってネ
N・T

つ
杖なしで歩きたい
S・K

げ
元気であることかな
O・N



～古希まであと1年～

2021年最初のえん通信をお届けします。無事に新しい年を迎えられたでしょうか。みんなのコンサート、認知症カフェやだれでも食堂などでお目にかかっていた皆さん、しばらくお目にかかれていませんが、いかがお過ごしですか。コロナが収束したらまた会いましょう。



年明け早々に2度目の緊急事態宣言が出されました。とはいっても、介護の現場はずっと「緊急事態」ですから特に変わらない日々です。今日までは利用者さん職員とも感染者はゼロですが、明日はどうでしょう。誰かが発熱したと聞いたたびにドキドキの毎日です。

えんの職員は市内・近隣自治体在住者が多く、自転車やバイクで通う人がほとんどです。1回目の宣言が出された時に感染リスクの高い電車通勤から自動車通勤に切り替えてもらった人もいて、現在2名だけが公共交通機関利用、「地域密着」はこういうときにもありがたいですね。

さて、わたくし1月7日に69才を迎えました。おかげさまで元気に働けていますが、老いを感じるが増えてきました。高齢者や障がいがある人々とかかわる仕事ですから、良いこともあります。利用者さんと年齢が近い分、共感できるが増えます。半世紀以上前の昔話も共通の経験として聞くことができます。

小堀鷗一郎先生のエッセイに、先生の回診を心待ちにしていた女性高齢患者のエピソードがあります。週1回を月1回の勤務に変えると告げた時、「それなら自分のベッドには来ないでほしい。週1回でもこんなにつらい思いをして先生が来るのを待っているのに、このつらさが1か月も続くのではやりきれない」と嘆かれたそうです。「人と人の間の「通常の会話」への渴望を序実に示している」と先生は書かれていますが、超高齢期は介護施設や医療機関だけでなく一人暮らしでも、人々との会話や心の通い合いが失われます。認知症をカミングアウトされた認知症専門医長谷川和夫先生の日々を追ったドキュメンタリーで、かつてご自分が推奨したデイサービスに、「どうしても行かない」と言い張るシーンがありました。ボール投げを「させられる」つまらなそうなお顔が印象的でしたが、ここに足りなかったのも「通常の会話」や、心に触れる「何か」のように思いました。

毎日仕事に出ている私でも、コロナ禍の今は叶わない、親しい友人と交わす読んだ本の話や他愛のないおしゃべりがたまらなく恋しい。えんでその役割を担っているのはボランティアさんですが、今は皆さんお休み。利用者さんの寂しさはどれほどでしょうか。わたしもフリーになったら「通常の会話」ボランティアになろうかな。

(代表理事／小島美里)

～全ての介護・福祉職員にコロナ検査を～

1月15日、埼玉県知事が「感染拡大している12市（新座市含む）の介護施設職員の緊急PCRを実施する」と記者会見しました。えんの職員も対象になるのかなと調べてみると、介護施設、つまり特養ホームなど大規模施設の職員のみ、介護保険・障がい者福祉合わせて7つあるえんの事業は全て対象外です。ここで黙っていたら暮らしネット・えんではありません。さっそく県内の団体に声をかけ、25日に『全ての介護サービス・障がい者福祉サービス従事者への新型コロナウイルス感染症緊急PCR検査等を求める要望書』を提出してきました。

介護施設で感染者が出ればクラスターが発生することが多く、検査が緊急に必要なのはよくわかります。しかし障がい者支援や在宅介護は異なる困難を抱えています。本人やご家族に感染予防できない方も多く、独居や老々世帯では訪問してみたら発熱していたといったことも起きます。要望書には入れませんでした。配食サービスの配達担当者も対象にしてほしい。今はできるだけ対面を避けていますが、中にはベッドまで運びふたを取って渡すことが必要な方もいます。

提出準備が整った直後、厚生労働省から通知が届きました。簡易キット、プール方式の採用で、施設職員だけでなく、福祉施設職員やそのほかの従事者も対象になるとあります。これ幸い「PCRに限らず、プール方式や簡易検査キットの利用で頻回な検査を」の一文を追加しました。感染リスクが高い介護・福祉現場では、頻りに検査して陽性者は隔離、を繰り返すことで大規模な感染は防げるはず。国はこの方式の予算を確保しているとのことですから、近いうちに朗報が届くことと期待しています。

そういえばワクチンも優先接種に上げられているのは介護施設職員のみ。全職種を入れていただきたいです。

要望書に名前を連ねたのは、全国初の「ケアラー条例」を埼玉県で実現させた日本ケアラー連盟、認知症の人と家族の会埼玉支部、さいたまNPOセンター、やどかりの里（精神障がい支援）、それに暮らしネット・えんの5団体。ケアの提供団体と当事者（本人・家族）団体双方が一緒に行動できたことは、今回の収穫でした。賛同者を広げる時間がなかったのが残念でした。



その後、2月1日付で新座市から、市指定の認知症グループホームや小規模多機能型介護などの従事者を対象にPCR検査を実施するとお知らせがありました。一步前進！うれしいです。

（代表理事／小島美里）

新型コロナウイルス、暮らしネット・えんでは その3

◆ケアプランえん◆

暮れの12月には近隣の病院や介護施設で感染者が出ました。通所リハビリでは12月に利用者1名が感染、2名の職員と1名の利用者の感染が見つかって年内の通所は休止。私が担当している利用者も濃厚接触者でしたが、幸いPCR検査陰性でした。それでも2週間自宅待機が義務づけられていて、他のデイサービスも行けなくなりました。代わりに訪問介護を考えたのですが、緊急では対応ができないとのことでした。家族がいたので何とか無事に生活できましたが、独り暮らしや夫婦のみの世帯では一時的でもデイやショートステイの利用ができなくなれば、深刻な影響を受けます。

年明け2回目の緊急事態宣言が発出されると、市内の特養ホームからは、新規入居者や緊急時のショートステイ利用は、緊急事態宣言が解除されるまではできないと断られる状態です。今後の様子を見ながら、利用者のご家族、サービス事業所と密に連絡をとり、できる限り緊急時の対応ができるよう支援していきます。

◆ケアサポートえん◆

～Aさんとの移動支援～



新型コロナウイルス感染症は1年が経とうとしていますが、未だ収束の見通しもない。ワクチンの話はチラホラ聞こえてきていますが、感染した場合の治療薬？が作られている？なんて話は未だ聞きませんね。そうこうしているうちにウイルスは確実に近寄ってきていて、いつ感染してもおかしくない状況です。

移動の困難な障がいがある方のためにある移動支援（外出支援）サービスも、2020年2月を最後に休止で、決して「不要」ではない外出もやむなく中止の状況が続いています。

Aさんとの移動支援での外出は2014年の9月から足かけ7年、外出の機会がない人なので、毎月1回の外出では、行きたいところを探して出かけます。最初の約3年は行き先が被ることなく外出することができましたが、次第にネタも尽きてきてしまっています。今思うと結構いろいろなところにも行けたなあ。行ってみたら「本日を以って閉館します」の『錯覚美術館』とか、たまたま大イベント開催日の「造幣局」、中華まん1個を食べるためだけに行った「横浜中華街」などいろいろな思い出がありますね。Aさんの

凄いところはどんなに電車が混んでいても「座りたい」などと同僚の私を困らせたことが本当に一度もないことです。どんなに歩き回って疲れた時でも「だいじょうぶ」と言ってくれました（一度だけ、よだれを垂らして寝ていたことはあったかな…笑）。また一緒に出掛けたい。その日が来ることを楽しみにしたいと思います。

（ケアサポートえん／佐藤豊）

◆デイホームえん◆

2021年1月8日、再び『緊急事態宣言』が発出されました。

昨年の2月から1年、感染対策に追われる日々を過ごしてきました。

ずっと1日の利用人数を減らしているため、「今日は人数少ないわねえ。お休みかしら？」と毎回言われる利用者さんがいます。ボランティアさんのレクリエーションもお休みいただいているので、以前のようにみんなで“ワイワイ”がなかなかできません。それでも、8月にはスイカわり、9月の敬老会ではスタッフが三味線と歌を披露し、10月の運動会では応援団長にケアプランえんの川村ケアマネを迎え、小島代表も小麦粉の中に顔を突っ込み皆さんの笑いを誘っていました。グループホームの利用者さんも一緒に、久しぶりに少し賑やかな時間が持てました。今年も感染対策をしながら時々“ワイワイ”を盛り込んで、楽しく、めげずに過ごしていきます!!

◆グループホームえん◆

毎年、年末年始はお家に帰って家族と過ごしたり、お正月のご馳走を食べに行ったりする方もいるグループホーム。ケアサポートえんスタッフの協力で初詣に行くのも恒例でした。しかし、今年はそれもできず、ご家族が訪ねてきてくれてもマスク越しで短い時間しか一緒に過ごせず、寂しいお正月でした。そんな中、元旦が夜勤明けに当たった林スタッフが、得意の三味線を披露してくれました。お天気も良く日差しがたっぷり差し込む食堂で、長唄を聞いたり、みんなで「ふるさと」や「みかんの花咲く丘」を歌ったり、しばし和やかな時間を過ごしたのでした。



（グループホームえん／井上暁子）

◆多機能ホームまどか◆

～シュッシュュッ・ピッ・コポコポ まどか感染予防の毎日～

まどかの一日は消毒から始まります。アルコールスプレーを片手に床全体と手すり、テーブル、ドアノブや椅子のひじ掛け、人が触るであろう、ありとあ

らゆるものにシュッシュッとアルコールを吹きかけ拭き取ります。かなり寒くなってきましたが、換気をしながら行なうものですから、震えながらの作業です。やっと温まったところに、利用者の皆さんのお迎えです。送迎車に乗る前にオデコにピッ！検温をして、両手にシュッ！手指消毒。まどかに到着してからも、手洗いうがい、手指消毒。「あ～、また消毒ね」。スタッフも1ケア1消毒を目標に感染予防。アルコール消毒液で例年になく手指はガサガサです。ハンドクリームを塗っても直ぐに手洗いが待っています。昼食前にもテーブルをアルコール消毒、手洗いをして手指消毒。夕方、シュッシュッとアルコールスプレーしながらモップかけ。「今日はもう車を使わないよね」の時に車内を消毒。

お酒を飲んでなくても酔っぱらってしまうのではないかと、というくらい一日に何度もアルコールを吸い込んでいます。コロナだけではなく、突然のノロウイルスの感染にも対応できるように、毎朝ペットボトルに作っている消毒液をコポコポと布巾を入れたバケツに入れてその日の消毒は終了です。

まどかを利用している人の中には、マスクをつけてもらえない人や正しくつけてもらえない人も少なくありません。気が付くと顎にマスクがついています。利用の仕方を変更したら、混乱を招いて「今日行く日？」と電話が続いたり、ご近所の方々に「今日何曜日？」と聞きに行くことが増えてしまったりと影響が出ています。全国的にも感染者が増え、まどかとしてどうしたらいいのか悩んでいます。いつ感染者が出てもおかしくない状況の中で、感染対策としてできることをやるしかない今日この頃です。

(まどか感染予防担当スタッフ)



◆えんの食卓◆

新型コロナウイルスが蔓延してから、お弁当の利用者数が平均 65 食から 75 食と一日平均 10 食程度増えました。なぜだか水曜日は配食利用の数が多く、お弁当の数だけで約 85 食になってしまい、ご飯をお弁当箱に盛る作業は二人がかりでないと間に合わず、一人だと盛っても盛っても終わらない❗️感じがします。11 時にはお弁当を出発させたいので、本当に！！焦ります。

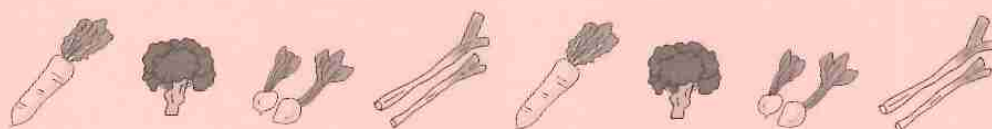
配達者は出発時にはマスク、ビニール手袋、ソックスカバー、アルコールを各自持って出るのが定着しました。

コロナが流行る前は、配達時利用者さんとよくお話できていましたが、以前のように気軽に利用者さんと世間話をするのはなかなか難しく、配達件数も増えたことから次を急ぎすぐ失礼する形になってしまいます。体調の変化に気がつきにくくなってしまわないか心配です。

～フレッシュな二人が応援に入って、利用者さんも喜んでます～

昨年4月からえんの食卓で配達のお手伝いをさせていただいている柏木流音です。父がえんで働いていることと、昨今のコロナ禍の影響で時間ができた事が配達を始めるきっかけになりました。

利用者さんの方々は今までほとんど関わったことのない層の方が多く、自分が受け入れてもらえるか少し心配でした。しかしそんな心配も無駄で、お弁当を渡すときに皆様が必ず「いつもありがとうね」とか「ご苦労様」などの声をかけてくださいます。中にはベッドからなかなか動けない方もいますが、それでも声はかけてくださいます。とても心が温かくなりました。これからもたくさんの方に喜んでいただけるように頑張りたいです。



(柏木流音)

初めまして、去年の10月から高齢者配食サービスのアルバイトをさせていただいている清水凜です(大学4年なので就職する日までにになります)。

最初は15～20件ほどの家の場所を覚えることができるのか、事故を起こさずひとりでお弁当を届けることができるのか、様々な不安がありました。しかし、「えん食卓」のスタッフが自分に自信がつくまでしっかりと教えて下さったお陰で、ひとりひとりに確実にお弁当を届けられるようになりました。

また、このアルバイトをしていくにつれてただ“お弁当を届ける”というだけでなく、利用者の安否確認や表情や顔色を伺い、様子を見るということも仕事のひとつだということが分かりました。

最初はお弁当を届けることで精いっぱいでしたが、これからは利用者の様子を把握し、少しでも長く美味しいお弁当を食べつづけてほしいです。

私からの意見です。

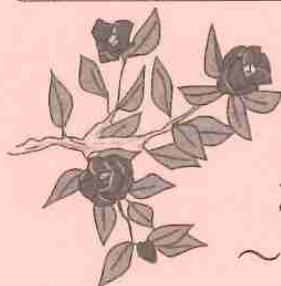
利用者の方からはいつも「美味しいお弁当をありがとう」などと感謝の言葉をいただきます。しかし、中にはおいしくないという方や、残してしまう方、内容に飽きたという方がいらっしゃいます。利用者の方がワクワクするようなお弁当を作るために、よく小学校で行われる“リクエスト献立”や、残してしまいがちなもの、取り入れてほしいものなどの項目を入れたアンケートをしてみると、より質の良いお弁当ができるのではないかと考えました。

(清水凜)

認定NPO法人暮らしネット・えんへの寄付のお願いします！

税制上の特例措置により、個人は寄付金控除、法人は損金算入等が受けられます。相続財産の寄付も対象となります。

いただきました寄付は、職員の処遇改善、介護知識の普及、研修事業、だれでも食堂にいざ、みんなのコンサートなど文化事業等に充てさせていただきます。また新型コロナウイルス関連にも使わせていただく予定です



◆今後の地域交流事業について◆

認知症カフェ、だれでも食堂にいざは
2021年3月までお休みさせていただきます。

◆認知症電話相談のお知らせ◆

毎月第3水曜日 10時から16時まで
認知症に関する知識や、受けられる介護サービス等の情報提供、悩みごと、認知症のある方に対する介護のコツや症状を踏まえた生活の工夫等々、お気軽にお電話ください。

TEL 048-480-4150

～ 職員大募集！！ ～

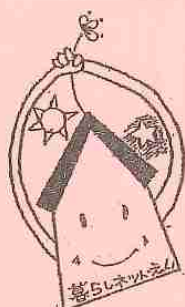
離職率が低いと評判の暮らしネット・えんで一緒に働いてみませんか？
ヘルパー(訪問介護職員)・介護職員募集しています。
資格がない方も資格取得のお手伝いをいたしますので、ご相談ください。

地域で暮らし続けていくために 2020年度新規・継続会員募集中！

正会員：1000円 賛助会員：3000円

※入会を希望される方は、事務局までご連絡ください。

郵便振替(00180-5-314344)



■ 編集・発行 認定NPO法人暮らしネット・えん

〒352-0033 埼玉県新座市石神2-1-4

電話:048-480-4150 FAX:048-201-1311

Eメール:npoenn@jcom.home.ne.jp

ホームページ:<https://npoenn.com/>